

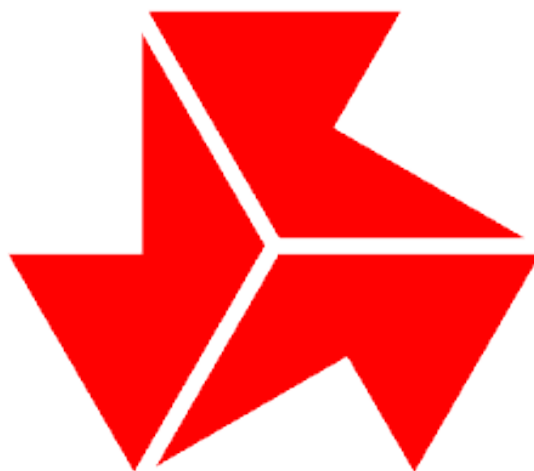
平成26年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会
高円宮賜牌 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会

きら

煌めく青春 南関東総体 2014 アーチェリー競技



競技上の注意



【開会式、閉会式】	市原緑地運動公園臨海体育館	千葉県市原市岩崎536番地
【競技会場】	ゼットオーオリプスタジアム	同 上
【練習会場】	ゼットオーボールパーク	同 上

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
平成26年度全国高等学校総合体育大会市原市実行委員会

< 競技日程 >

日 程	実 施 内 容	時 間	適 要
	7月31日 (木)	10:00 ~ 16:00	練習会場開設
	8月1日 (金)	10:00 ~ 11:00	監督会議
		12:00 ~ 12:55	女子公式練習・男子用具服装検査
		13:05 ~ 14:00	男子公式練習・女子用具服装検査
		15:30 ~ 16:20	開会式
		9:00 ~ 14:00	練習会場開設
1日目	8月2日 (土) 団体・個人戦 予選ラウンド	8:40 ~ 12:30	女子予選ラウンド
		13:00	女子予選ラウンド通過校・選手発表 ※(掲示発表による)
		13:20 ~ 17:10	男子予選ラウンド
		17:40	男子予選ラウンド通過校・選手発表 ※(掲示発表による)
		9:00 ~ 17:00	練習会場開設
2日目	8月3日 (日) 個人戦 決勝ラウンド (マッチラウンド) 3位決定戦、 優勝決定戦は 交互射ち	8:40 ~ 9:25	男女1回戦1組目
		9:40 ~ 10:25	男女1回戦2組目
		10:45 ~ 11:15	男女2回戦
		11:25 ~ 11:55	男女3回戦
		12:05 ~ 12:35	男女準々決勝戦
		12:45 ~ 13:15	男女準決勝戦
		13:35 ~ 14:00	女子3位決定戦
		14:10 ~ 14:35	男子3位決定戦
		14:45 ~ 15:10	女子優勝決定戦
		15:20 ~ 15:45	男子優勝決定戦
		16:10 ~ 16:40	個人戦表彰式
		9:00 ~ 16:00	練習会場開設
3日目	8月4日 (月) 団体戦 決勝ラウンド (マッチラウンド) 3位決定戦、 優勝決定戦は 交互射ち	8:40 ~ 9:25	男女1回戦1組目
		9:40 ~ 10:25	男女1回戦2組目
		10:35 ~ 11:05	男女準々決勝戦
		11:15 ~ 11:45	男女準決勝戦
		12:20 ~ 12:45	女子3位決定戦
		12:55 ~ 13:20	男子3位決定戦
		13:30 ~ 13:55	女子優勝決定戦
		14:05 ~ 14:30	男子優勝決定戦
		15:20 ~ 16:10	団体戦表彰式・閉会式

※タイムテーブルは予定時間のため、天候その他により変更することがあります。

< 競技規則 >

(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則および(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める大会運営規定により実施する。

< 大会運営規定 >

1 用具服装検査について

- (1) 用具服装検査は、指定された場所・時間帯に受けること。
- (2) 検査票には、予め必要事項を各選手が記入し検査時に持参すること。
- (3) 検査時には当該校の監督が立ち会い、学校単位で実施する。
- (4) 競技に使用する全ての用具および服装について検査を受けること。
- (5) 公式練習・競技中も、用具および服装は検査継続の対象とする。
- (6) 用具の交換や修理に際しては、その都度審判員のチェックを受けること。

2 公式練習について

- (1) 標的は距離 70m、122cm 的を使用し、予選時の標的立ち順に従って行う。
- (2) 出場登録された選手のみを対象とする。
- (3) 監督・選手・マネージャーは競技時に使用する服装を着用し、選手・マネージャーは必ず競技者番号(ゼッケン)を装着し、監督は「IDカード」を装着すること。
- (4) AB・CD 矢取り、CD・AB 矢取りの 2 立ち(4分)で実施する。
- (5) 用具・服装検査・公式練習の日程は下記のとおりとする。

8月1日 (金)		女子	男子
	公式練習	12:00~12:55	13:05~14:00
用具・服装検査	13:05~14:00	12:00~12:55	

3 選手のエントリーと棄権について

- (1) 団体戦のエントリーは4名までとし、予選ラウンドの成績は上位3名の合計得点で決定する。
決勝ラウンドにおいてはエントリーされた4名の内、3名で行射を行い、交代はできない。
なお、参加申し込み後のエントリー選手の交代は認めない。
- (2) 選手の棄権、団体決勝ラウンド出場メンバーの届け出期限・場所は、以下の通りとする。
予選ラウンド…… エントリー選手の棄権がある場合のみ。
8月2日(土)の予選ラウンド開始30分前までとする。(競技本部へ)
女子: 8:10まで 男子: 12:50まで
団体決勝ラウンド……団体戦出場メンバー3名を記した「団体戦決勝ラウンドエントリー用紙」
を8月3日(日)10:00までに競技本部に提出する。

4 競技・行射方法について

- (1) 予選ラウンド「8月2日(土)」およびシュートオフ、順位の決定
ア 団体戦ならびに個人戦の予選は同一選手をもって実施する。
女子は8:40~、男子は13:20~ (隔年で男子女子の時間帯を交代)

- イ 行射は1標的2名の2立ち(AB/CD)で、距離は70m、122cm的を使用し、4分6射ごとに採点および矢取りを行う。なお、選手が行射エリアは、シューティングライン上のポイントとポイントの間とする。
- ウ 競技前に練習を設ける。(AB・CD矢取り、CD・AB矢取り)
- エ 矢取りは当該出場選手が行うものとする。
- オ 弓具破損等で審判へアピールするときは、シューティングラインを外し、挙手して審判員に知らせる。
- カ 団体戦は予選ラウンド上位16チームが、個人戦は予選ラウンド上位64名が決勝ラウンドに進出するものとする。
- キ 決勝ラウンドへの進出、次のステージへの進出、または3位決定戦および決勝戦のときの同点は10点数、X数を考慮しない。
- ク 個人戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(64位)で同点が生じた場合は、フィールド中央に近いどちらの選手も使用していない標的を使用し、1競技者1標的で1射(40秒)の得点によるシュートオフを行う。同点の場合は中心に近い矢により決定する。それでも順位が決まらない場合は、順位が決定するまで繰り返す。
- ケ 団体戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(16位)で同点が生じた場合には、フィールド中央に近いどちらのチームも使用していない標的を使用し、1チーム(チーム上位得点者3名)1標的で3射(各競技者1射)の得点によるシュートオフを行う。(制限時間40秒)
シュートオフが同点の場合、チーム内の中心に最も近い矢により決定する。これも同じならば、チーム内で2番目に中心に近い矢で、これも同じならば3番目に中心に近い矢で決定する。それでも順位が決まらない場合は、同様の方法で順位が決定するまで繰り返す。
- コ 予選ラウンドの得点が同点だった場合、順位は次のようにして決定する。
 - a 10点の数の最も多いもの。
 - b X(インナー10)数の最も多いもの。
 - c a、bが同数の場合は同順位とする。
 - d 決勝ラウンドの1回戦における対戦表の位置を決めるとき、上記a、bによって決定する。それでも順位が決まらない場合は、ディスクトスによって順位を決定する。

(2) 個人戦決勝ラウンド

- ア 距離は70m、122cm的を使用して行う。
- イ 競技者番号(ゼッケン)は予選通過者決定後に配布する個人戦決勝ラウンド用を着ける。
- ウ 1組目、2組目とも1回戦の競技開始前にもみ練習を設ける。(2分×2回)
- エ 1・2回戦においては対戦する2名は同じ標的を使用し、3回戦からは1標的1名で行う。
- オ 各対戦の立ち位置はトーナメント表どおりとする。(巻末トーナメント表参照)
- カ 対戦はセットシステム(1セット2分3射5セットマッチ)で実施し、各セットの勝者は2ポイント、同点の場合は両競技者に1ポイント、シュートオフの勝者は1ポイントを獲得する。各対戦で6ポイント以上に達した競技者は勝者となり次のラウンドに進む。
- キ 1回戦～準決勝の行射について
 - a 2名同時行射とし、採点、得点記録、ポイント表示は当該選手が行う。
 - b ブザー2声でシューティングラインに入り、ブザー1声で行射を開始する。

- c 勝敗が決したら、選手サイン後に後方の審判員から確認（審判サイン）を受け、標的前で勝者コールを受ける。
 ※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、スコアカードの記載内容が優先される。
 - d 5セット終了時で同点の場合は、2名同時行射で1射（制限時間40秒）のシュートオフにより勝敗を決定する。同点の場合は、的の中心に近い矢の選手を勝者とする。これも同じならば、シュートオフを順位が決定するまで行う。
- ク 3位決定戦・決勝の行射について
- a 3位決定戦・決勝戦は交互射ちとし、1射（20秒）ごとに行射を交代する。
 - b 交互射ちの順番は、予選ラウンドの上位者が決定する。
 - c 先攻の選手は、行射開始の合図（ブザー）で行射を開始する。
 - d 第2セット以降は、合計ポイントの低い選手が先攻となる。
 - e 各セット終了時に両者の合計ポイントが同点の場合は、第1セット先攻の選手が先に行射する。
 - f 後攻の選手は、先攻の選手が射ち終え、自分のタイマーが減算を始めたのを確認してから行射を行う。
 - g 両者がそれぞれ3射を射ち終えた時点でブザーが3声鳴り、エージェント（得点記録代行者）が採点を行う。
 - h 5セット終了時で同点の場合は、交互射ち各1射（20秒）のシュートオフにより勝敗を決定する。第1セット先攻の選手が先に射つ。同点の場合は、的の中心に近い矢の選手を勝者とする。これも同じならば、シュートオフを順位が決定するまで行う。
- ケ 弓具破損によるロスタイムは認めない。
- コ マッチ戦の敗者の順位決定法
- a 決勝ラウンド1回戦の敗者は全員を33位とする。
 - b 決勝ラウンド2回戦の敗者は全員を17位とする。
 - c 決勝ラウンド3回戦の敗者は全員を9位とする。
 - d 準々決勝戦の敗者は、敗戦時のポイント数順とし、同ポイント数の場合は準々決勝戦時の合計得点により5位から8位を決定する。その得点が同点の場合は、本項（1）の**コ**のa・bにより順位を決定する。
 - e 最上位の順位は、3位決定戦、優勝決定戦の結果による。

（3）団体戦決勝ラウンド

- ア 距離は70m、122cm的を使用して行う。
- イ 競技者番号（ゼッケン）は予選通過チーム決定後に配布する団体戦決勝ラウンド用を着ける。
- ウ チーム内の選手の矢は、ノックやフェザーで容易に区別ができるようにする。
- エ 1回戦の1組目、2組目とも競技開始前にのみ練習を設ける。（2分×2回）
- オ 全対戦において1チーム1標的を使用する。
- カ 各対戦の行射位置はトーナメント表どおりとする。（巻末トーナメント表参照）

キ 対戦はセットシステム（1セット2分6射（3名×2射）4セットマッチ）で実施し、各セットの勝者は2ポイント、同点の場合は両者とも1ポイント、シュートオフの勝者は1ポイントを獲得する。5ポイント以上に達したチームは勝者となり次のラウンドに進む。

ク 両チームの3選手が1mライン後方に待機した状態で対戦が始まる。

ケ 1回戦～準決勝の行射について

- a ブザー2声で、1mライン後方で行射開始に備える。
※ムーブアップ(10秒)の間に1mラインを越えてはならない。
- b ブザー1声で各チーム1選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
- c 全ての選手が行射を終えるか、制限時間が経過した時点でブザー3声が鳴り、矢取りと採点を行う。
- d 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1度に1選手2本以内を行射する。制限時間を示す合図の前または後に行射した矢は、そのセットの本数分だけ最高点から削除し、M（ミス）と採点する。
- c 勝敗が決したら、代表者サイン後に後方の審判員から確認（審判サイン）を受け、標的前で勝者コールを受ける。
※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、スコアカードの記載内容が優先される。
- e 団体戦決勝ラウンドの罰則規定は、P16の『参考資料』の【**団体戦の罰則規定について**】による。

コ 3位決定戦・決勝の行射について

- a 3位決定戦・決勝戦は交互射ちのマッチ戦とする。
- b 交互射ちの順番は、予選ラウンドの上位チームが決定する。
- c 第2セット以降は、合計ポイントの低いチームが先攻となる。
- d 各セット終了時に両者の合計ポイントが同点の場合は、第1セット先攻のチームが先に行射する。
- e 先攻するチームはブザー2声で1mライン後方で行射開始に備える。
※ムーブアップ(10秒)の間に1mラインを超えてはならない。
- f 先攻するチームはブザー1声で1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始し、3番目の選手が行射を終え1mラインをまたぎ越した時に時計が止まり、最終矢の得点が表示されてから後攻チームの行射となる。
- g 後攻のチームは1mラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認してから、1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。3番目の選手が行射を終え1mラインをまたぎ越した時に時計が止まり、最終矢の得点が表示されてから先攻チームの行射となる。
- h 先攻のチームは1mラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認し、1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。
- i 行射または行射時間が終了するとタイマーが止まり、最終矢の得点が表示されてから後攻チームの行射となる。
- j 後攻のチームは1mラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認し、1番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。

- k 行射または行射時間が終了するとブザーが3声鳴り、エージェント（得点記録代行者）が採点を行う。
- l 3選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、1度に1選手1本のみ行射する。行射時間の前または後に矢が発射された場合は、標的に的中した矢の得点をその本数分だけ最高点から順に削除する。
- サ 弓具破損によるロスタイムは認めない。
- シ 1人の選手が行射終了後、1mライン後方に下がるまで次の選手は1mラインを越えてはならない。
- ス チームの3選手全員が制限時間内に行射を終了しなければならない。
- セ 1mライン後方にいる選手は、スコープ等を用いて的中場所を確認し、行射中の選手に教示することができる。監督・マネージャーのうち1名はコーチボックスに入ることができ、選手に指示を与えることができる。その際、手持ちの双眼鏡または三脚付きスコープ等を使用することができる。（スコープ等はそれぞれ1つずつ持ち込むことができる）
- ソ 1回戦～決勝戦までの対戦で同点が生じた場合は、シュートオフにより勝敗を決定する。シュートオフではチームの3選手が1射ずつ行射する。この場合も1名ずつシューティングラインに立ち行射する。3射の合計点が同点の場合は、的の中心に最も近い矢を有するチームを勝者とする。これも同じならば、チーム内で2番目（または3番目）に近い矢を有するチームを勝者とする。それでも順位が決まらない場合、得点による3射1分（各競技者1射）のシュートオフを順位が決定するまで繰り返す。
- タ 3位決定戦・決勝戦でのシュートオフは、交互行射を行い、第1エンド目に先攻したチームが先に行射する。シュートオフには、その対戦で使用した標的を用いる。
- チ マッチ戦の敗者の順位決定法
 - a 決勝ラウンド1回戦の敗者は、全員を9位とする。
 - b 準々決勝戦の敗者は、敗戦時のポイントにより5位から8位を決定する。
 - c 以上の各ステージで敗者が同点の場合、本項（1）のこのaからcに従って順位を決定する。
 - d 最上位の順位は、準決勝戦、3位決定戦、優勝決定戦、の結果による。

（4） 標的番号および競技者番号（ゼッケン）について

- ア 予選ラウンドでは、各選手はプログラムに記載された標的を使用する。
- イ 決勝ラウンドでは、予選ラウンドの順位により使用標的が決定する。
- ウ 参加各選手及びマネージャーは、支給された競技者番号（ゼッケン）を必ず装着する。

5 得点記録について

- （1） 得点記録は別紙のスコアシート（予選用・決勝用）を使用し、同一標的を使用する全選手で行う。また、選手の得点は携帯端末を使用し入力した後、選手全員が確認して記録を送信する。
- （2） 予選ラウンドの得点記録は、次の通り各々が分担して行う。
 - ア 矢を所有する競技者の指差し呼称にしたがって、高い得点から順にスコアカードに記入する。その標的の他の競技者は、呼称確認・端末入力・得点記入を行う。（インナー10はアルファベットのXを、0点はアルファベットのMを記入・入力する。）
 - イ 矢の所有者および他の同一標的を使用する全選手が、それぞれを分担して得点確認を行い、

確実に実施するものとする。

ウ 選手はスコアシートと携帯端末の得点が合っていることを確認後、携帯端末から送信する。

エ 競技者自身が発関与する得点記録業務の内容は、他の競技者の得点記録や順位に関する権利にも影響を及ぼす。それぞれが下記の順序のとおり分担業務を確実にを行うこと。

役割等を拒んだ場合は競技会への参加権利を失うものとする。虚偽が発生した場合は、該当選手または同標的選手全員を失格とすることもある。

1 的 4 人

順序	得点記録の順序／業務分担	競技者 A	競技者 B	競技者 C	競技者 D
1	A の得点記録	得点呼称	呼称確認	端末入力	得点記入
2	B の得点記録	得点記入	得点呼称	呼称確認	端末入力
3	C の得点記録	端末入力	得点記入	得点呼称	呼称確認
4	D の得点記録	呼称確認	端末入力	得点記入	得点呼称
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・スコアシートの間違いを防ぐため、記載の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を復唱する。 ・的中孔の全てに、L 字でチェックする。 				

1 的 3 人

順序	業務分担	競技者 A	競技者 B	競技者 C
1	A の得点記録	得点呼称	端末入力・呼称確認	得点記入・呼称確認
2	B の得点記録	得点記入・呼称確認	得点呼称	端末入力・呼称確認
3	C の得点記録	端末入力・呼称確認	得点記入・呼称確認	得点呼称
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・スコアシートの間違いを防ぐため、記載の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を復唱する。 ・的中孔の全てに、L 字でチェックする。 			

(3) 得点記録(的中点数の判読・記載得点の復唱・誤記入等)に関し、異議があれば直ちに審判員の判定、訂正確認を求めることができる。

(4) 的中点数の判定について、選手は次のとおり異議を申し立てる権利がある。

ア 得点の判読に対する自己確認、または同一標的を使用する選手それぞれの立場で疑義が生じた場合、いずれからも審判員の判定を求めることができる。

イ 審判員により得点の判読が行われ、これが最終判定となる。

(5) 競技者は、競技終了後、サイン(競技者、採点者)、合計点、10点数、X数を全て記入したスコアシートを提出しなければならない。主催者が間違いを発見した場合、点数は訂正される。

(6) 合計得点が記入されないままサインし、記録本部に提出された場合は「記録なし」とする。

(7) 個人戦決勝ラウンドの1回戦から準決勝までのスコアシートへの記入及びスコアボードへのポイント表示は選手が行う。

3位決定戦・決勝戦では得点の判読を審判員が行い、エージェント(得点記録代行者)がスコアシートに記入確認を行う。この判読が最終判定である。

- (8) 団体戦決勝ラウンドの1回戦から準決勝までのスコアシートへの記入及びスコアボードへのポイント表示は選手が行う。団体戦の3位決定戦・決勝戦では得点の判読を審判員が行い、エージェント(得点記録代行者)がスコアシートに記入、確認を行う。この判読が最終判定である。
- (9) 同一標的選手全員の得点記録業務が完了し、得点記入が終わったことを選手全員が確認するまで、矢・標的面・標的支柱等に一切触れてはならない。
- (10) スコアシートに記載された得点の訂正は、矢を抜き取る前に審判員を呼び、2本線で該当エンドのすべて矢の訂正を行い、その的の選手全員がサインし、審判員に確認してもらう。同じエンドで2回以上の訂正をする場合、訂正欄がないため審判員に訂正してもらう。
- (11) 得点記録業務に必要な絶対条件を、各自が完全に履行すること。不注意による不履行も「合意の違反行為」とみなされる。
- ア スコアシートに記載される各エンドのスコアが正確であることについて、各選手は競技者としての責任を負わなければならない。
 - イ 各々の分担業務遂行のため、選手名を聞き漏らさないこと。
 - ウ 誤りを防ぐために、用紙・選手名・記入上の確認を行うこと。
 - エ 得点記入した選手が復唱しない場合は、復唱を必ず要求すること。
 - オ 声量不足で聞き取れない場合は、再度の復唱と声量の要求をすること。
 - カ 得点呼称時に、必ず「自分のスコアシートの記入欄」であることを確認すること。
 - キ 矢を抜き取る前には、標的面的の中孔にL字マークを記入しておくこと。
 - ク 選手(団体戦決勝ラウンドの場合は代表者)は、競技終了時にスコアシートに確認のサインをする。サイン不履行の場合、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。
 - ケ 得点呼称は他の競技者にも分かりやすいよう指を差しながら行う。(その際は矢には触れないよう注意すること)
 - コ 上記ア～ケの行為は、すべてそれぞれの選手の責任として行うこと。
- (12) 得点記録業務において、次の場合には当該選手並びに同一標的を使用する選手全員の失格を宣言することがある。
- ア 自身の虚偽や不正申告の場合
 - イ 上記行為の合意・容認の場合
 - ウ 各厳守事項に対する不全・不履行の場合
- (13) 競技者自身が標的に行けない場合、審判員の許可を得てチームの監督、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。

6 スコアシートについて

- (1) 予選ラウンド用のスコアシートは、予選ラウンド練習前に配布され、必要事項を記入する。
- (2) 決勝ラウンド用のスコアシートについては各対戦前に配布される。(1対戦1枚)

7 服装規定について

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める服装規定により実施する。

8 練習会場の利用について

- (1) 練習会場はゼットエーボールパークに設置する。
- (2) 日程・時間帯は下のとおりとする。

7月31日(木)	自由練習	10:00~16:00	開設
8月1日(金)	自由練習	9:00~14:00	開設
8月2日(土)	自由練習	9:00~17:00	開設
8月3日(日)	自由練習	9:00~16:00	開設
- (3) 「4分間行射、矢取り」を繰り返す自由練習とする。
- (4) 一時的に利用者が集中する場合は2~3立ちの行射に切り替える。
- (5) 選手・マネージャーは必ず競技者番号(ゼッケン)を装着し、監督は「IDカード」を装着すること。

*練習会場へ入る際に係が確認します。

9 失格について

- (1) 選手の違反行為に対して
 - 1回目……………注意
 - 2回目……………警告
 - 3回目……………失格の処分とする。ただし、大会の秩序を著しく失墜混乱させる行為・スポーツマンシップに反する行為等については、1回目での失格もあり得る。
- (2) 監督の違反行為についても同様であるが、特に以下の事項に注意すること。
 - ア 喫煙については所定の場所以外では厳禁のこと。
 - イ その他、「競技規則」や「総体参加心得」に反する行為とみなされた場合は、競技場への立ち入りを制限する。

10 その他の事項について

- (1) 的紙の一斉交換は以下のとおりとする。
 - ア 予選ラウンド 8月2日(土)
 - ・午前女子練習終了後
 - イ 個人戦決勝ラウンド 8月3日(日)
 - ・練習終了後
 - ・3回戦終了後
 - ・準決勝終了後(3位決定戦前)
 - ・3位決定戦終了後(決勝前)
 - ・競技委員長が必要と認めた場合。(選手よりアピールがあるなしにかかわらず)
 - ウ 団体戦決勝ラウンド 8月4日(月)
 - ・練習終了後
 - ・準決勝終了後(3位決定戦前)
 - ・3位決定戦終了後(決勝前)
 - ・競技委員長が必要と認めた場合。(選手よりアピールがあるなしにかかわらず)

(2) 競技場内の立ち入りについて

- ア 監督・選手・マネージャーには、「IDカード」を配布するので、大会期間中、競技場内に立ち入る場合は必ず装着すること。
- イ 予選ラウンド、個人決勝ラウンドにおいては、監督・マネージャーは、WWLまで立ち入ることができる。
- ウ 団体戦決勝ラウンドにおいては、チームの監督・マネージャーのうち1名が、※コーチボックスに入ることができる。
(コーチボックスに入らない監督、又はマネージャーはWWLまで立ち入ることができる。)
※審判員が選手の行為等に対して注意・指導を与える場合、コーチボックスに監督がいないときは、監督を通さず直接選手、マネージャーに行うことになる。

(3) 使用する弓具はPLの後方に整頓して置く。(弓の一部がPLからはみ出さないようにする)

(4) ロストアローについて

- ア 競技会場および練習会場で行射により矢を紛失した場合は、審判員(競技会場)または練習会場係(練習会場)に必ず報告すること。
- イ 報告のない矢が競技中に見つかった場合は、その本数分の最高点を削除する。

(5) 団体戦出場校の選手は、nock又はフェザーの識別が可能な矢(全員が異なる)を使用すること。

(6) 記録の速報について

- ア 予選ラウンドでは、6射終了毎に会場内の速報掲示板に記録を掲示する。
- イ 予選ラウンド終了後に行う記録の確認は、速報掲示板に掲示された確認記録一覧表による。記録を掲示してから10分間の時間を設け、公式記録に対する異議申し立てを受け付ける。
- ウ 決勝ラウンドでは、各対戦終了毎にトーナメントボードに結果を表示する。
- エ 確定記録は、予選ラウンド・決勝ラウンドとも引換券と交換で配布する。

(7) 異議申し立てについては、いかなる場合も監督を通じて競技本部で受け付け、競技委員会の裁定をもって最終決定とする。

(8) 携帯電話等を競技場内で使用すること、及び着信音を鳴らすことを厳禁とする。

(9) 個人戦表彰式・団体戦表彰式および閉会式については以下のとおりとする。

- ア 個人戦表彰式には、個人戦決勝ラウンドで8位以内に入賞した選手が参加する。
- イ 団体戦表彰式および閉会式には、団体戦決勝ラウンドに出場した全選手・マネージャーが参加することを原則とする。

11 スコアシート

(1) 予選ラウンド用スコアシート

ア スコアシートは予選ラウンド練習前に配布される。

(選手は的番号、氏名・学校名・ゼッケン番号・ラウンド数を記入すること)

イ スコアシートは1的ごとにA4版1枚とする。

ウ 1枚目(黒):本部用、2枚目(赤):記録用、3枚目(青):選手用である。

選手はスコアシートに得点を記入し選手テント後方のテーブル上のトレーに置くこと。

選手用(青)は各自で保管する。

エ 得点記入は下から記入する。

オ 36射終了時に、選手サイン・記録者サインを忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

平成26年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高門宮賜牌 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会		平成26年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高門宮賜牌 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会		平成26年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高門宮賜牌 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会		平成26年度 全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 高門宮賜牌 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会	
70 m		70 m		70 m		70 m	
平成26年8月2日		平成26年8月2日		平成26年8月2日		平成26年8月2日	
-A		-B		-C		-D	
選手名		選手名		選手名		選手名	
選手サイン		選手サイン		選手サイン		選手サイン	
記録者サイン		記録者サイン		記録者サイン		記録者サイン	
10	×	36	射計	10	×	36	射計
第6	黒			第6	黒		
エンド	訂			エンド	訂		
-A		-B		-C		-D	
ラウンド		ラウンド		ラウンド		ラウンド	
第5	黒			第5	黒		
エンド	訂			エンド	訂		
-A		-B		-C		-D	
ラウンド		ラウンド		ラウンド		ラウンド	
第4	黒			第4	黒		
エンド	訂			エンド	訂		
-A		-B		-C		-D	
ラウンド		ラウンド		ラウンド		ラウンド	
第3	黒			第3	黒		
エンド	訂			エンド	訂		
-A		-B		-C		-D	
ラウンド		ラウンド		ラウンド		ラウンド	
第2	黒			第2	黒		
エンド	訂			エンド	訂		
-A		-B		-C		-D	
ラウンド		ラウンド		ラウンド		ラウンド	
第1	黒			第1	黒		
エンド	訂			エンド	訂		
-A		-B		-C		-D	
ラウンド		ラウンド		ラウンド		ラウンド	

(2) 個人戦決勝ラウンド用スコアシート

ア スコアシートは各対戦前に配布されるので必要事項を記入し、開始時に担当審判に提出する。

(選手は的番号、ゼッケン番号・氏名・学校名を記入する。)

イ スコアシートは1対戦(2人)に1枚で記入する。

ウ スコアシートは1枚目(黒)：本部用、2枚目(赤)：記録用となっている。

対戦終了後、選手はスコアシートを審判に渡す。

エ 対戦終了後に選手サインを忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

平成26年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技				高円宮賜牌 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会							
個人決勝トーナメント				男子・ 女子		1回戦 2回戦・3回戦・準々決勝・準決勝・3位決定戦・決勝					
競技者番号	64			的番号	15						
選手名	□□ □□			的番号	16						
学校名	○ ○ ○ 高等学校			競技者番号	1						
選手名	☆☆ ☆☆			選手名	☆☆ ☆☆						
学校名	○ ○ ○ 高等学校			学校名	◎ ◎ ◎ 高等学校						
	1	2	3	小計	訂正サイン						
1	10	9	7	26							
2	10	8	7	25							
3	9	8	7	24							
4	9	9	9	27	□□						
	9	9	8	26	☆☆						
5	10	9	8	27							
シュートオフ	1回目		点	mm							
	2回目		点	mm							
記録者サイン	☆☆ ☆☆			勝	勝			記録者サイン	□□ □□		
選手サイン	□□ □□			勝者に○印 1枚目本部用 2枚目記録集計用				選手サイン	☆☆ ☆☆		

(3) 団体戦決勝ラウンド用スコアシート

ア スコアシートは各対戦前に配布される。必要事項を記入し開始時に担当審判に提出する。

(選手は的番号・学校名を記入する。)

イ スコアシートは1対戦(2チーム)に1枚で記入する。

ウ スコアシートは1枚目(黒)：本部用、2枚目(赤)：記録用となっている。

選手は6射ごとに記録し、集計用携帯端末に入力する。

エ 対戦終了後に選手サインを忘れないこと。

※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアシートの受け取りを拒否することができる。

平成26年度 全国高等学校体育大会アーチェリー競技 高円宮賜杯 第47回全国高等学校アーチェリー選手権大会											
団体 決勝トーナメント 男子 ・ 女子						1回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 3位決定戦 ・ 決勝					
予選順位		◎ ◎ ◎				高等学校		的番号		的番号	
9								11		12	
1		1	2	3	4	5	6	小計	打点	1	
		10	10	9	8	7	6	50		ポイント	
打点										0	
2		1	2	3	4	5	6	小計	打点	2	
		10	10	10	9	9	8	56		ポイント	
打点										2/2	
3		1	2	3	4	5	6	小計	打点	3	
		10	9	9	9	8	7	52		ポイント	
打点										0/2	
4		1	2	3	4	5	6	小計	打点	4	
		10	9	9	9	9	8	54		ポイント	
打点										2/4	
予選順位		◇ ◇ ◇ ◇				高等学校		的番号		的番号	
8								8		12	
1		1	2	3	4	5	6	小計	打点	1	
		10	9	9	8	7	7	50		ポイント	
打点										51	
2		1	2	3	4	5	6	小計	打点	2	
		10	9	9	9	8	7	52		ポイント	
打点										2/2	
3		1	2	3	4	5	6	小計	打点	3	
		10	10	9	9	8	8	54		ポイント	
打点										2/4	
4		1	2	3	4	5	6	小計	打点	4	
		10	9	9	9	8	7	52		ポイント	
打点										0/4	
シュートオフ		1	2	3	小計	so		1/5		0/4	
		10	9	8	27						
測定		15 mm	mm	mm	合計		5		4		
代表者サイン		△△△ △△				勝者に○印		勝		勝	
審判サイン											
1枚目本部用 2枚目記録集計用											

<<予選通過校にはゼッケンを配布するので予選ラウンド終了後本部まで取りにくること。>>

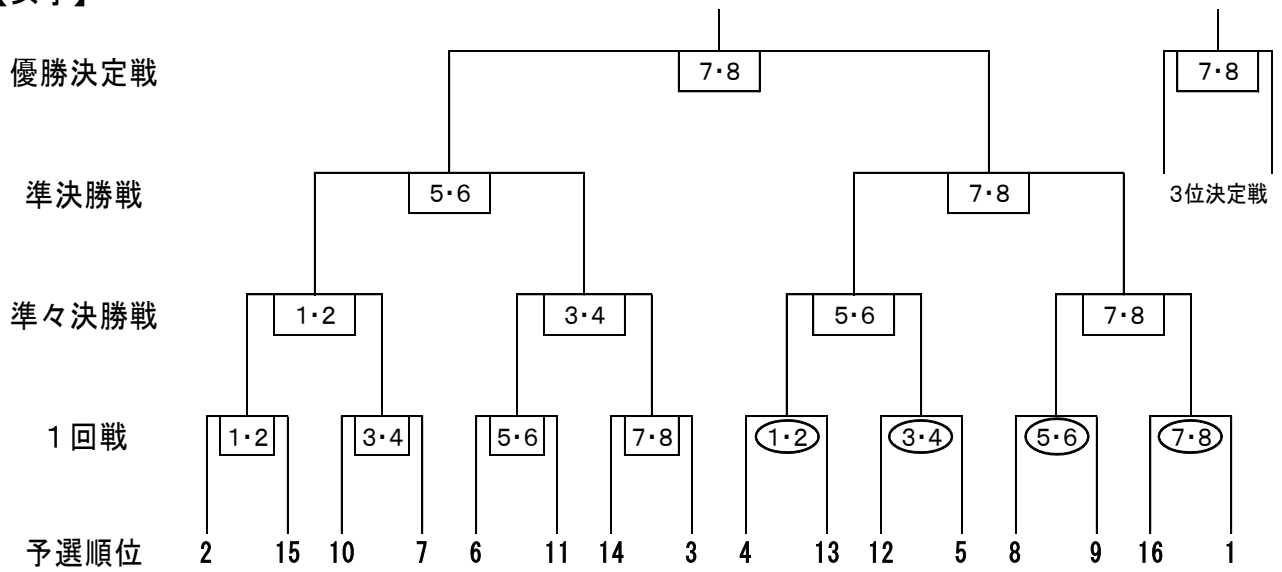
団体戦決勝トーナメント表

※ □内の数字は標的番号を表す。

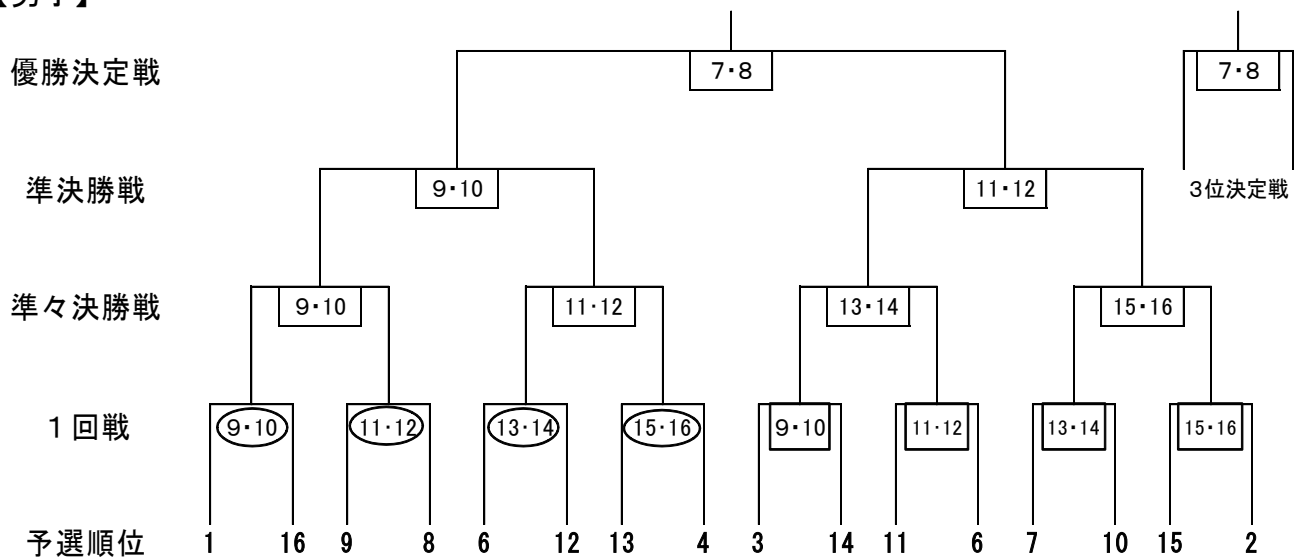
※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。

※ 1回戦の□は1組目の標的番号、○は2組目の標的番号を表す。

【女子】



【男子】



『参考資料』

【団体戦の罰則規定について】

1 1 mラインを越えるのが早すぎたとき。

『規則』 1名の選手しか1 mラインを越えてはならない。

事例：1 mライン以内に複数の選手が立ち入ったとき。

対応：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

2 クィーバーから矢を早く抜きすぎたとき。

『規則』 シューティングラインをまたいで立つまではクィーバーから矢を取り出してはならない。

対応：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、レッドカードが出され、最高点削除。

3 決められた本数以上の矢を射ったとき。(時間外発射を含む)

事例①：1人の選手が3本行射した。(1回戦から準決勝の場合)

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

事例②：制限時間を過ぎて矢を発射した。

対応：重大な違反として対処する。

内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

《付記》選手は、その選手のものであるとはっきり識別できる矢を使わなければならない。

審判員が一目見て、3選手がそれぞれ2射しか発射していないことが確認できるように、各選手はチーム内の他の選手とは明らかに違った、ノック・フェザー・クレストを使用すること。

4 コーチボックス内にいる者が、コーチボックスから出たとき。

『規則』 監督は、選手が行射中は、コーチボックスの中かダブルウェディングライン後方にいなければならない。

1回目の違反 → 対応：審判は、コーチボックスを指す。

2回目の違反 → 対応：その対戦中、コーチボックスから退去させる。

3回目の違反 → 対応：その日の競技終了まで競技場への立ち入りを禁止する。

5 行射開始の合図以前に1 mラインを越えたとき。

『規則』 全ての団体戦は、1 mライン後方に待機した状態で始まる。

事例①：選手がブザー2声(ムーブアップ)で1 mラインを越え、シューティングラインに移動した。

対応：小さな違反として対処する。

内容：イエローカードが出されたら、後から1 mライン内に入った選手は、1 mライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻る。

警告を無視して行射を続けた場合、レッドカードが出され、そのエンドの最高得点が削除。

《付記》 かけ声、虚点の発声等による錯乱・虚勢行為は、競技者としてはあるまじき行為である。相手の立場を尊重するフェアプレーの精神で、真摯な競技態度であることを望む。この点については、各監督に徹底して事前指導を要望する。

また、競技場外（応援席等）の応援者から同様の行為があった場合は、競技場内への立ち入りを禁止するなどの対処を行うことがある。